

元気なシニアの  
皆さまを  
応援します!



アクティブ・シニア生涯活躍促進事業

平成30年度  
「徳島県版介護助手制度」  
モデル事業を実施します。

徳島県社会福祉協議会では、徳島県からの委託を受け、介護現場の人材確保と高齢者の生きがいづくりなどを目的に、介護の「周辺業務」を高齢者に担ってもらう「徳島県版介護助手制度」のモデル事業を実施します。事業2年目となる平成30年度においては、県内17カ所の介護施設で介護助手さんを募集します。



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会  
770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内  
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250  
e-mail: info@e-fukushi.jp http://e-fukushi.ict-tokushima.jp/

介護の「周辺業務」とは、未経験者でも可能な部屋の掃除や食事の片付け、シーツ交換、利用者の話し相手など、原則、専門的な介護の知識を必要としない業務を指します。



平成29年度  
「徳島県版介護助手制度」の  
モデル事業の様子

RIPPLE リプルとは、波紋のことです。

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金により発行されています。



とくしま県民活動プラザ  
770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地  
沖洲マリンターミナルビル1F  
tel:088-664-8211 fax:088-664-5345  
e-mail:info@plaza-tokushima.com  
http://www.plaza-tokushima.com  
http://www.tokuvc.jp



マスコットキャラクター プラザ

ひと43号 June.2018

CONTENTS

特集 特定非営利活動法人  
ボランティアドッグ育成センター

ひと NPO は人間づくりの場  
NPO 法人環境とくしまネットワーク  
代表理事 島田 イサオさん

子どもたちのボランティア活動  
徳島市南部中学校 NVC 委員会

ハートリレー  
No.43 鈴木さんから大北さんへ

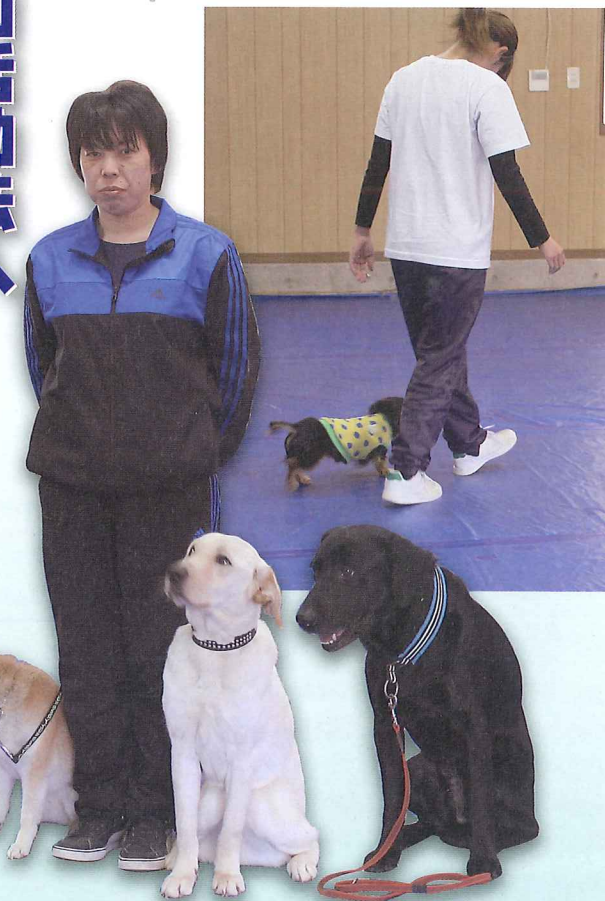
New face  
NPO法人 小星プロジェクト

ふくしと私  
阿波国慈恵院 施設長 太田 敬志さん

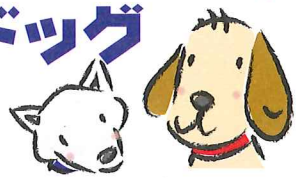


特定非営利活動法人  
ボランティアドッグ育成センター

今回の特集は、障がいのある人が生活するうえで必要な音を聞き分け、知らせたり、指示された物を持ってくるなど特別に訓練を受けた「人に役立つ犬（アシスタントドッグ）」を育成している、特定非営利活動法人ボランティアドッグ育成センターさんに注目です。



# 特定非営利活動法人 ボランティアドッグ 育成センター



## 人に役立つ犬(アシスタントドッグ)を育てる

もともと岡山で活動しており、ライオンズクラブの依頼で聴導犬を育成し、寄付しました。1991年に徳島に戻り、ノイマンドッグスクールを開設し、2003年の身体障害者補助犬法施行に合わせ、もっと本格的に活動したいと思い、同年に法人を設立しました。県内唯一の育成センターです。そして第1号となる聴導犬を育成し、寄付しました。

「人に役立つ犬を育てたい」という思いから、聴導犬、介助犬、セラピー犬、災害救助犬などを育ててきました。現在の悩みは、アシスタントドッグを希望する人が少ないということです。聴導犬は、耳の不自由な人が生活するうえで必要な音を聞き分けて、知らせるように、特別に訓練を受けた犬のことで、チャイムや携帯など訓練して覚える音はありますが、音が鳴ると、自分でユーザーの方を導くことが聴導犬の役目。介助犬や盲導犬は障害物をよけたり、物を拾ったりと命令があるのですが、聴導犬は自分で行動する必要があるた

取材当日は、愛くるしい犬たちが出迎えてくれました。現理事長は、20歳のときにドイツへ渡り修行を重ね、帰国後、数々の「人に役立つ犬」を育成してきました。そんな理事長のもとで修行を積んだ頼もしいスタッフたちが中心となり活動しています。

理事長 新田 訓由さん



め、自主性が非常に大切になります。人間でいうと「気がつく子」です。

現在、全国には聴導犬が74頭、介助犬が75頭います。外国では容易に所有でき、数も多く、学校へ連れて行ける国もあります。一方、日本では認定も難しく、所有できるのは18歳以上と法律で定められています。また、器械で代替できる部分もあります。しかし、アシスタントドッグは、ユーザーの方の生活をサポートしたりと心の支えにもなります。もっと多くの方にアシスタントドッグの存在を知ってもらいたいと思います。

センターには訓練士である頼もしいスタッフたちがおります。今後も、「人に役立つ犬」を育成し、スタッフと共に社会に貢献していきたいです。

ユーザーの方の膝にタッチして音を知らせるため、大型犬だとユーザーの方が倒れてしまう危険性があるからです。また手入れがしやすいということもあります。

訓練は、生後4~6ヶ月頃から始めます。犬が楽しいと思える気持ちを維持できるよう、仔犬のときからいろんな人に触れ合ったり、物をこわがらないよう楽しく時間をかけて慣らせていくことが大切です。また、仔犬から慣らせていくことで、電車や救急車などの大きな音にもびっくりしなかったり、基本的な服従訓練をしっかりとし身につけることができます。介助犬は、車いすユーザーの方が多いので、こわがらず横について歩いたり、ユーザーの方が希望する物を持ってきいたりします。ユーザーの方によって体の動かし方も変わってくるため、無理な体勢にならないよう気をつけます。一方、聴導犬は、音を知らせる訓練を中心に行います。

訓練後の認定試験は兵庫県で行います。初めての場所で、試験官も多く、しかも私たちはそばで見守ることができないので、ユーザーの方も犬もすごく緊張します。そんな中での試験で、ユーザーの方の「できた!!」という喜び。通じたユーザーの方と犬との信頼関係。これらは私にとってすごい喜びであり、原動力です。今後もユーザーの方と犬が楽しく意思疎通ができるよう訓練を重ねていきたいです。

## 仔犬のうちから楽しく訓練を

ドッグインストラクター 賀川 比路さん

私は、昔から動物が好きだったことから動物関係の専門学校へ進み、そこで人に貢献する介助犬の存在を知りました。センターでドッグインストラクターとして携わるようになって9年になります。現在、2頭の介助犬デモ犬と1頭の聴導犬デモ犬を育成しています。介助犬デモ犬は私が所有している仔と、盲導犬には不適格だったためキャリアチェンジした仔です。聴導犬デモ犬は音への反応が良かったため県動物愛護センターから引き取った仔で、セラピー犬としても活動しています。どちらも育成には2年かかります。適性として共通しているのは、音に驚かず、人に対して危害を加えないということ、また、やんちゃすぎるとユーザーの方が大変なので落ち着いた仔が適しています。介助犬は車いすからユーザーの方が落ちて人も支えるのに耐えられるように大きい仔が多く、

聴導犬は小型・中型犬の柴犬サイズが向いています。音が鳴ったとき、



## 犬の気持ちに寄り添って

ドッグインストラクター 奥谷 明子さん



動物が好きで、犬との接し方を学びたいという思いから、見習いとして育成センターに勤め始め、一度独立し、またここに帰ってきました。この仕事に就いてから、もう20年以上になります。JKC訓練士の資格を取得し、現在は主に一般の方の飼い犬のしつけ教室や預り犬の世話の担当をしています。しつけ教室は、飼い主さんから5ヶ月間お預かりして「待て」「伏せ」やトイレや散歩などの訓練をセンターで行い、飼い主さんにお返しするシステムです。しつけや訓練は、犬との関係をつくることから始まります。人と同じように犬によっても性格が違い、それぞれの性格に応じて進めていきます。訓練をしていく中で、できなかった

ことができるようになったり、課題をクリアしたりと目に見えて犬の成長を感じられる楽しみも大きいです。しつけ教室の他に、介助犬の育成にも取り組んでいますが、動作のひとつひとつを、どのように犬

に教えるかが悩みどころです。ドアを開けたり、物を持ってきたり、介助犬にはいろいろな動作が求められます。それぞれの犬が最

終目標に近付けるように、犬の気持ちに寄り添って、犬が楽しみながら訓練できるようにと心がけています。目まぐるしい毎日ですが、犬と一緒に過ごす時間、この仔たちの顔を見ることが私の力の源です。これからも、この仔たちと共にいろいろなことを経験しながらボランティアドッグの育成に挑戦していきたいです。

## 出逢う人すべてに癒しを

セラピー犬育成 松本 八重子さん



セラピー犬とは、ふれあいや交流を通じて、高齢者をはじめ、病気やケガまたは精神的な痛手を受けた人の不安を減らし、気力を高め心と体を癒す働きをする高度な訓練を受けた犬たちです。ボランティアドッグ育成センターで訓練された犬を譲り受けたのがきっかけで、これまでの10年間で、ゴールデンレトリバーやラブラドルなど、5頭のセラピー犬と過ごしてきました。セラピー犬は、どのような事にも動じず、怖がらず、動き回らない特性が求められ、最初の頃は犬の感情や行動を把握するのに苦労したことを覚えています。

現在は、もうすぐ2歳になるシェパードのダリイ君と一緒に介護施設や病院などを訪問しています。犬に慣れていない方は、最初は驚きますが、攻撃性がないことが分かると安心して触ったりおやつをあげたりして触れ合ってくれます。訪問先の皆さんに「ダリイ君」と名前を覚えてもらい、私たちの訪問を楽しみに待ってくれ、いつも喜んで迎えてくれることを嬉しく思います。世間話や昔話に花を咲かせ、時にはご自身が飼っていた犬のことを思い出して涙を流される方もいらっしゃいます。また、病気で体が動かなくなった方を訪問した際に、今まで動かなかった手を動かされたことがありました。犬の存在を感じてくださったのか、今までで一番感動したことです。そして、訪問先の皆さんにとって、犬がどのような存在であるかを痛感し、セラピーをやってきて良かったと心から思いました。この仕事に携わったことで、友達や仲間が増えました。色々苦労はあったけれど、今にとっても満足しています。犬から教わることも多く、今後も多くの方たちと触れ合い、犬と癒しや安らぎの時間を過ごしていただきたいと思っています。

## こんな活動をしています!



お家のインターホンが鳴ったことを知らせるベル



聴導犬:音が鳴った場所へと誘導している様子

介助犬指示されたものを持ってくる様子

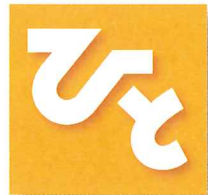


介護施設で活動するセラピー犬

(取材: 山田 奈津・向井 亜里紗)

特定非営利活動法人ボランティア  
ドッグ育成センター 理事長 新田 訓由

住所:〒779-0102 板野郡板野町川端字富の谷口 34-5  
E-mail: vdic@mxi.netwave.or.jp  
TEL: 088-672-4461  
URL: http://wwwi.netwave.or.jp/~vdic/



# NPOは人間づくりの場

今回は、環境カウンセラー、エネルギー環境エキスパート、バイオマス活用アドバイザー、文化財マイスター、徳島県森の案内人、そして一級建築士と様々な資格を持つ、NPO法人環境とくしまネットワーク代表理事の島田イサオさんに、お話をうかがいました。いったいどんな方なのか、取材させていただいた我々も興味津々です。

「本業は何？」とよく聞かれるという島田さん。これだけの資格を持たれているのですから、聞く方のお気持ちもよくわかります。島田さんからは、「本業は建築！」とにこやかに答えが返ってきました。

いったい何をきっかけに、環境や省エネルギー問題に興味を持たれたのでしょうか。それは、県が森の案内人養成講座の受講者を募集しているのをたまにみたところから始まります。これまでは、建築という分野で木を使う側の立場だったけれど、今度は、木を守る側に立つことに興味を抱き、早速、受講の申し込みをされました。

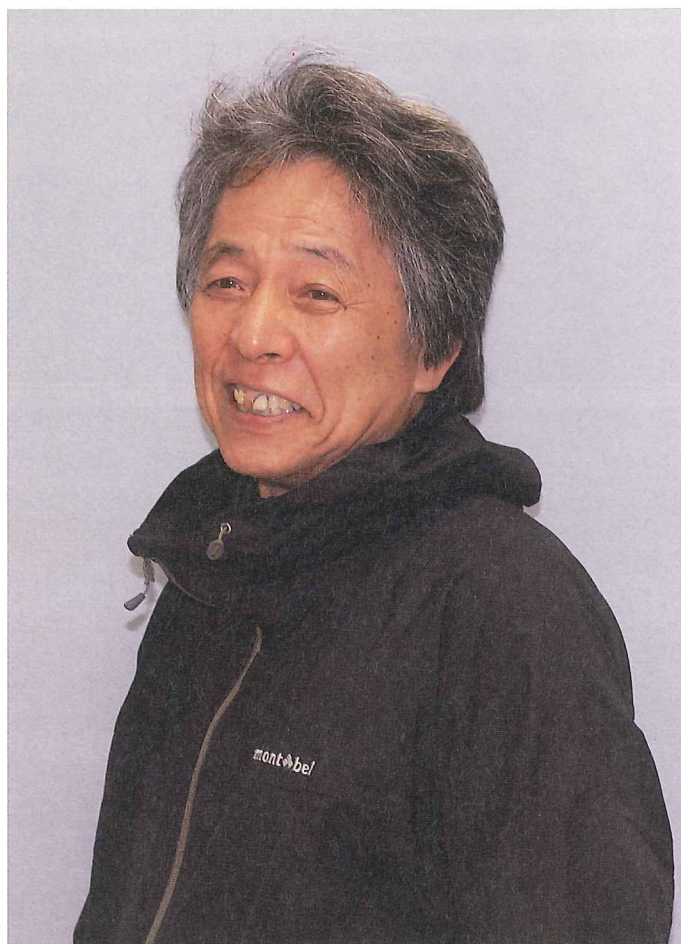
そして、その講座で環境問題に取り組まれている方と出会い、好奇心旺盛な島田さんは、「これは面白そうだ！」と直感的に感じたとおっしゃいます。そこから、島田さんの新たな世界が広がっていったそうです。

様々な資格を取得し、各研修にも積極的に参加されている島田さんですが、ある研修会で「片手にスコップ、片手にビール」というボランティア精神を持つ方に出会います。その、厳しいことも楽しいことも同時にやっていくというスタイルに、大いに刺激を受けたそうです。

一度知り合って興味を持つと、その方の住んでいる場所を訪れ、話を聞かせてもらう。そこから、交流が始まり、強い仲間意識と信頼関係が築かれ、今があるのだとおっしゃいました。

そんな島田さんの今年度の活動は、地球温暖化や3R等の環境問題を生活の中から考え、解決していくことをテーマとした「リサイクル資源を活用した、小さな手作り発電推進プロジェクト」です。

このプロジェクトは、リサイクル資源を活用して、手作りの小水力発電機と小型風力発電機を作成し、実際の活用方法や設置の仕方などを参加者に学んでもらいます。つまり、古くからある知恵と新しい技



NPO法人環境とくしまネットワーク

代表理事 **島田 イサオさん**

● 連絡先 〒772-0051  
徳島県鳴門市鳴門町高島字竹島462  
TEL: 090-3786-2276  
FAX: 088-687-2276  
E-mail: jikuu@amail.plala.or.jp  
<http://kankyoutokushima.web.fc2.com/index.html>

術を組み合わせ、自然の恵みを上手に利用することで、より理解しやすく身近な自然エネルギーづくりを普及していこうというものです。「次世代に少しでも美しい地球を引き継ぐんだ」という社会意識を作っていきたいと、熱い思いを語ってくださいました。

個人では限界があると思い、仕事仲間と立ち上げたNPO法人も、今年で10年目。「良い仕事をするには、人間づくりが必要。NPOが人間づくりの場となって欲しい。」と話す島田さんの周りには、いつもたくさんの豪快な仲間達が集まっているでしょう。

(取材：丸山 明美・日下 睦子)

## 子どもたちのボランティア活動



### 「学校ボランティア部! 紹介」 徳島市南部中学校NVC委員会

南部中学校NVC委員会(南部中学校ボランティアサークル)には、全18クラスから2名ずつの生徒が参加しており、36名の生徒がボランティア活動に取り組んでいます。

普段の活動は、花壇の草抜きや水やり、エコキャップ・ブルタプの回収などです。また、校内の環境美化推進や、赤い羽根共同募金への取り組みもしています。

さらに夏休みには、大型絵本の読み聞かせのために、生徒同士で内容や役割を決めて校区内の保育所を訪問しています。また、秋には、文化祭でバザーを運営し、その収益金で花の苗を購入して花壇を彩っています。

取材中には「草抜きて、やりがいがある」「花を育てるのが好きなので、水やりをするのも楽しい」などの声を聞かせていただき、やりがいを感じながら活動している様子がわかりました。



NVC 委員全員集合



草抜きをしている生徒達

## プラザはこんなサービスを提供しています。

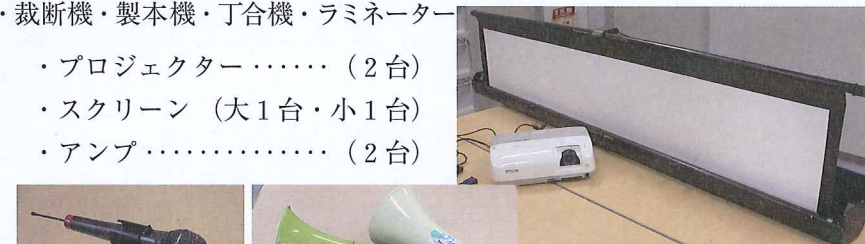
- ◆ 会議室・研修室の貸し出し  
(第1会議室…12名・第2会議室…18名・研修室…50名)  
※研修室については、夜間のみ2室に分割 研修室1…18名・研修室2…24名  
※貸し出しは団体単位で3ヶ月先まで予約ができます。

【ご利用には  
団体登録が  
必要です。】

- ◆ 作業室の利用  
印刷機・大型プリンター・紙折り機・裁断機・製本機・丁合機・ラミネーター

- ◆ 貸し出し機材
 

・無線ハンドマイク …… (3本)	・スクリーン (大1台・小1台)
・ピンマイク …… (2本)	・アンプ …… (2台)
・拡声器 …… (4本)	
・OHC …… (1台)	
・ワンタッチタープテント (8張)	
・フロアマット …… (15枚)	
・布製ブロック …… (1セット)	
・スタッフジャンパー	



スクリーン・プロジェクター



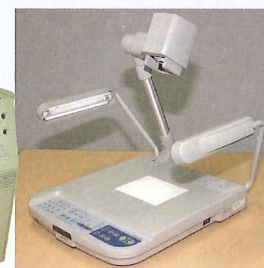
ハンドマイク



拡声器



アンプ



OHC

- ◆ インターネットで、プラザ事業や県内の社会貢献活動に関するイベントや各種情報が検索できます。

- ◆ フリースポットサービスの提供

## イベントガイド

### おためしボランティアを 必要とする団体を募集します

NPO活動やボランティア活動に関心のある方が、実際に社会貢献活動を体験できる事業を募集します。一般参加募集を行う予定の団体で、本事業にご協力いただける団体は申込用紙に必要事項を記入の上、持参、郵送、FAX、メール等にて、プラザまで提出してください。

※書類の様式はプラザHPよりダウンロードできます。

#### とくしま県民活動プラザ

TEL: 088-664-8211 FAX: 088-664-5345

e-mail: info@plaza-tokushima.com

URL: http://www.plaza-tokushima.com

### NPO強化事業 講師を派遣します!

NPOやボランティア団体が社会貢献活動を推進するために行う各種事業の講師を派遣し、団体の活動を支援します。

(講師選定の上、申請してください。)

#### <経費の負担について>

講師謝金と旅費の一部をとくしま県民活動プラザが負担します。

#### <NPO強化事業の流れ>

##### 1. 申請

事業実施の14日前までに申請書等を提出してください。  
プラザに団体登録していない団体は団体登録してください。

##### 2. 決定

申請書を受けて、審査のうえ、予算の範囲内で決定し通知します。  
1年度1団体あたり1回・講師1名とします。

##### 3. 報告

事業実施後、速やかに実績報告書等を提出してください。

※詳細についてはプラザのHPをご覧ください。

### NPO出前授業の希望校募集

県内で活躍するNPOやボランティア団体等を、小中高等学校等に講師として派遣します。この出前授業を希望する学校を募集します。

◆対象 県内の小・中・高等学校等

◆経費の負担について

講師(団体)への謝金及び旅費は、とくしま県民活動プラザが負担します。

※1団体につき謝金1万円程度、旅費1校あたり1回分。但し、材料費・機材運搬料等の実費はご負担いただきます。

◆出前授業の流れ

##### 1. 申請(申請は、実施希望日の20日前までに行ってください。)

「出前授業申請書」に、希望日時、予定会場、授業目的、内容(プログラム案)、希望講師(団体)等を明記し、提出してください。

申請回数は1学校あたり1年度1回。派遣講師(団体)は1団体とします。

##### 2. 決定

申請書を受けて、審査、希望講師(団体)へ確認のうえ、決定し通知します。

##### 3. 打ち合わせ

授業実施に向けて、学校担当者と団体担当者が事前に打ち合わせを行います。連絡調整等はプラザ担当者が行います。

##### 4. 実施報告

授業実施後、速やかに実施報告書等を提出してください。

※講師一覧、申請書の様式等についてはプラザのHPをご覧ください。

## ハートリレー

No.43 鈴木さんから大北さんへ



オカリナ演奏グループ みのり~な事務局長

おおきた けいこ

代表 大北 慶子さん

### オカリナの音色に 心が癒されます

三好市三野町に在住の大北慶子さんは現在、多岐にわたり、積極的なボランティア活動を行っています。中でも、オカリナ演奏活動として10名のメンバー達とともに

- ① 介護施設やデイサービスへの慰問
- ② 保育所・児童クラブの行事での演奏
- ③ 地域のイベントやサロン活動での演奏
- ④ 年2回の定期演奏会

などの活動を行っています。

オカリナの音色は、他の楽器にはない透き通るような響きが魅力です。高い音や低い音が一緒になった時の調べを聴くと、なんとも言えない幸せな気分になります。

みのり~なメンバーの方たちは、地域の人たちに音楽で笑顔になってもらいたい、聴いてくださる人たちと一緒に楽しい時間を過ごしたいという思いを持って活動されています。

そんな気持ちで活動しているみのり~なメンバーの皆様に対して、今後、益々の発展と、地域の活性化のためにも頑張っていたいだきたいと思えます。



すずき しげまさ  
文・鈴木 茂幹

## New face NPO法人 小星プロジェクト

### ■ 設立について

美馬市脇町小星地区を取り巻く集落の実態は、少子高齢化が顕著で人口は減少するばかり。そこで、地域の活性化を図る目的で、小星地区住民と出身者が小星ファンクラブを2011年に結成。その後、高齢者、障がい者、外国人、全国各地の地域活性化に寄与する団体、大学等と協力し、音楽や書道等の芸術に関する事業を通して、活力に満ちた地域と心豊かな生活、福祉の増進を実現するために、2017年3月、NPO法人小星プロジェクトの認証を得ました。

### ■ 現在の主な活動

例えば、蒔き続けた種は各地で芽を出しています。

- ① 北陸金沢にはスタジオ COBOSI が誕生(「小星の夜空で」をレコーディング)。
- ② 美馬市の音楽ユニット yuyu with eriri「ゆりり」達とのコラボで「この星を生きる」のCD発売。
- ③ 徳島県出身のプロ歌手「大川かずのり」の東北被災者支援をサポート「親父の漁場」日本一大会をKOBOSIで開催。
- ④ 脇町劇場オデオン座で台湾出身歌手「寒雲」チャリティーライブを2度開催(KOBOSI大使を委嘱)。
- ⑤ 四国大学書道文化学科の作品展「小星の書道展」を開催。
- ⑥ 勝浦さかもとの「かぜまーる」書道展、こぼし風鈴まつりを開催。
- ⑦ 風の駅さかもと(古民家カフェ)開設、シニアの活用と共働。
- ⑧ 吉野川市「アメニティー音楽ホール」でのアメリカ空軍太平洋音楽隊ビッグバンド編成を招いてジャズ・コンサートを開催。
- ⑨ 徳島県大衆音楽祭は第6回を迎え「歌の交流 小星の祭典」を開催。

### ■ これからのビジョン

音楽は心と心を結ぶ。さらに「世界を結ぶ・地域を結ぶ・世代を結ぶ」と言われています。私たちは、歌を通しての地域の活性化、さらに、地域間交流・国際交流。音楽を通しての社会貢献を今後も続けて参ります。

若き日の友と誓った「後継者育成」の遺志を旗印に、そして、小星の地から日本の心(歌)、文化を発信していきたいと考えています。(取材: 菊本 佳孝・秋月 大輝)

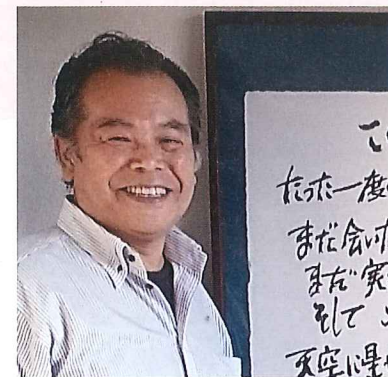
NPO法人  
小星プロジェクト

〒779-3634 徳島県美馬市脇町小星 521-15

TEL / FAX 0883-52-4282

Mail: nakatsuma@hoshiproject.com

URL: http://koboshi.halfmoon.jp/



NPO法人小星プロジェクト理事長  
中妻淳一氏



小星プロジェクト全面協力。  
7月24日 開催決定!!

## とくしま県民活動プラザ

●プラザは、ボランティア・NPO・地域づくりなど、県民の皆さんの自主的、自立的活動を総合的に支援する拠点として平成14年にオープンしました。運営は(認定特非)とくしま県民活動プラザと(社福)徳島県社会福祉協議会・とくしまボランティア推進センターが協力して行っています。

●プラザ開館時間

開館時間: 10:00~18:00

【研修室利用時間】

火曜日~土曜日: 10:00~21:00

日・祝日: 10:00~18:00

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始



### ● 公共交通機関をご利用の場合 ●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、

- ・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリナーターミナル」下車すぐ
- ・「沖洲・南海フェリー前(マリニピア経由)」行きに乗車「マリナーターミナル前」下車すぐ

## 編集後記

今年の春は天候にも恵まれて、桜を十分に楽しむことができました。日本に生まれてよかったと思う瞬間です。

ただ、桜は美しいだけではなく、常に悲しさを感じる花です。桜の下では毎年、数々の出会いや別れがあります。しかし、その出会いや別れが、人を成長させてくれます。

ところで、桜が咲く頃に思い出す歌があります。「ねがわくは花のもとにて春死なむそのきさらぎの望月のころ」美しくも悲しい西行の名歌です。

私も別れを力に変えて、新しい出会いを求めて出発します。

(森 繁生)

## 徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人  
徳島県医師会

会長 齋藤 義郎  
徳島市幸町3丁目61番地  
TEL 088-622-0264

CLE NUP 吉野川をきれいに!  
参加団体、募集中。

吉野川交流推進会議  
〒770-8570 徳島市万代町1丁目1番地  
県民環境政策課内  
TEL 088-621-2743  
FAX 088-621-2758  
E-mail office@yoshinogawa.org  
http://www.yoshinogawa.org/

# ふくしと私



児童養護施設 阿波国慈恵院

施設長 太田 敬志

一本の電話が鳴った。「お願いがあるんだけど」というその電話は以前に担当したことがある女の子からだった。女の子といっても現在、30代。私が児童養護施設で就職し担当したことがある子どもだ。彼女は入籍することになった。母子家庭で育った婚約者は婚姻届の証人の欄の記名を母に頼んだ。それを見てうらやましいと思った親のいない彼女は、私のことを思い出し、私に証人の欄への記名を頼んできたのだった。施設を出てから10年以上たつてからも、こういう形で頼ってくれたことに嬉しさを感じた。思い起こせば、思春期では心の揺れがあり、ぶつかったことも度々あった。いろいろなことがあつての彼女と施設、彼女と私の絆が結ばれてきたのだと思う。

の前に、彼は「先生、ここにある御馳走は確かに美味しいけど、僕にとつての一番の御馳走は、施設に最初に来た日の晩御飯なんだ。あの時、夕食時間を過ぎていたけど、焼き魚と熱々のご飯と熱々のそば米汁を出してくれた。あの味が忘れられない。あの味に勝るものをまだ食べたことがない。」不安な思いで生活していた彼が、安心できる場所に落ち着き、施設での最初の食の感動を覚えてくれた。児童養護施設は、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を養育する施設。1歳から18歳までの子どもたちが生活している。子どもたちと職員との姿に癒やされることも多い。前々回の帰省の際にカーネーションを持って帰った。前回の帰省ではそのカーネーションは枯れていた。その子は「なんで、お花は枯れるんだらう。お花を持って帰りたいのに。」と保育士に話すと保育士は「じゃあ、枯れないお花を探しに行こうか。」と二人で花屋さんに行つて、笑顔で帰ってきた。サボテンを大切にうに抱えて。

別の卒業生のことだが、一緒に食事をするところがある。仕事の内容や交際相手の報告を聞くのも楽しいことだ。その時、御馳走を目

育士に話すと保育士は「じゃあ、枯れないお花を探しに行こうか。」と二人で花屋さんに行つて、笑顔で帰ってきた。サボテンを大切にうに抱えて。私は大学で社会福祉を専攻し、主に子どもの福祉について学んだ。福岡県の児童養護施設で実習し、この職への思いが強くなった。徳島県の児童養護施設で職員を募集していることを知り就職を決意した。就職して、最初に先輩から「子どもたちと遊んでほしい」と言われたこともあり遊び続けた20代。子どもたちと歌って踊った30代。ユニットのリーダーとしてがんばろうとした40代。施設長になつた50代。年齢や経験に応じた役割があるのもこの仕事の魅力なのかもしれない。もし、この道に関心がある人は何歳からでもこの道にきてほしい。後輩の育成に悩んでいたとき、当時の施設長から「ここは人を育てるところだから」という言葉を



## 平成30年度 「職場内研修サポート事業」で 職場内研修支援事業 職場内研修の開催を支援します。

職場内の意識改革をはかり、更なるサービスや職員意欲の向上を目指す事業所に対して、企画・運営に関するノウハウの提供や講師紹介、研修経費の負担等を県社協がサポートします！『研修について何から始めたらいいかわからない』などのお悩みを抱えている事業所、研修担当者の方、お気軽にご相談ください！

■対象：徳島県内の社会福祉施設等  
■受付期間：平成31年2月28日（木）まで

徳島県社会福祉協議会が職場内研修実施における経費（講師謝金、旅費、賃借料等）を負担します!!（上限8万円）

＜問い合わせ・お申込先＞  
社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 福祉人材センター人材育成支援担当  
TEL: 088-654-8383 FAX: 088-657-1311  
e-mail:kenshu@tokushakyo.jp HP: http://e-fukushi.jp/kenshu/

## 預託 寄付

●明治大学校友会徳島県支部「第34回明治大学マンドリン倶楽部徳島チャリティ演奏会」実行委員長様より、県内社会福祉施設32ヶ所へ第34回明治大学マンドリン倶楽部チャリティ演奏会前売り券のご寄贈 ●株式会社 レディ薬局様、クラシエホールディングス株式会社様より、県内福祉施設5ヶ所へ車椅子のご寄贈 ●徳島県調理師共栄会様より、特別養護老人ホーム千歳苑へ施設訪問料理のご提供

●徳島ホテルリゾート株式会社 徳島グランヴィリオホテル様 ●株式会社 金剛様 ●南海トラフ巨大地震から徳島県保育園児を守る会 会長 松崎達文様 ●日本健康麻痺協会 徳島支部様 ●徳島県商工会青年部連合会 会長 山田敏夫様 ●株式会社 阿波銀行 取締役頭取 長岡 奨様 ●株式会社 徳島銀行 代表取締役頭取 吉岡宏美様 ●名鉄観光サービス株式会社 徳島支店様 ●株式会社 ふくなが様 ●株式会社 ダイアジム様 ●株式会社 金剛様 ●篠原石油株式会社様 ●有明社 ライトスタッフ様 ●株式会社 アルファ・システムズ様 ●原公認会計士税理士事務所様 ●協業組合 徳島印刷センター様 ●株式会社 スタンホールディングス 代表取締役 近藤伸一郎様 ●株式会社 JR 四国ホテルズ様 ●株式会社 教育出版センター様 ●有限会社 紙喜紙文具店様 ●有限会社 KEN デザイン事務所様 ●株式会社 四国情報管理センター 徳島支社様

ありがとうございます

## 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

# ボランティア活動保険

平成30年度 全国200万人 加入!!

http://www.fukushihoken.co.jp

ふくしの保険 検索

(※)天災タイプでは、天災(地震、噴火または津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが(天災危険担保特約条項)、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金額		年間保険料(1名あたり)		
保険金の種類	プラン	タイプ	プラン	
ケガの補償	死亡保険金	Aプラン	Bプラン	
	後遺障害保険金	1,040万円	1,400万円	
	入院保険金日額	6,500円	10,000円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
		外来の手術	32,500円	50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円	
賠償の補償	特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)		

保険金をお支払いする主な例

ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
取扱い代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
営業時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK17-16970 2018.1.9 作成)

卓越した価値を提供し、地域・お客さまと成長していく良き「パートナー」をめざします

環境にやさしい銀行を目指し 環境保全活動に取り組んでいます。

地域密着 一等星銀行へ

阿波銀行 http://www.awabank.co.jp/

徳島銀行 http://www.tokugin.jp



地域座談会の様子



実践していきたいと考えています。

鳴門市社会福祉協議会では、平成29年度に、平成30年度からの5カ年計画として「地域福祉活動計画」を策定しました。計画策定にあたっては、市内13地区で座談会を5回ずつ開催し、地域の方々からご意見をいただきました。また、徳島大学にも意見集約や方向性についてアドバイスをいただきました。座談会では、「若い人がどうすれば地域活動に参加してもらえるのか」「町内会にどうやったら加入してもらえらるのか」「高齢者のみの世帯が増加しているが、どのように対応していけばよいか」等、様々なご意見をいただきました。これらの課題を解決するため、鳴門市社会福祉協議会も協力し、地域の方々と連携した子育て支援の仕組みづくりや、地域のお祭り・運動会の復活、ゴミ出し・除草等のお手伝い、助け合いで繋がる移動支援等の実施に向けて、毎年計画の進捗状況を評価しながら、地域住民主体で計画を実践していきたいと考えています。

住民がしあわせに暮らせる共生社会を実現するために

石井町協会は、町や町内の各種団体と協力し、「はぐくみ子育て応援団」事務局として子育て支援に力を入れています。「みらいフェスタ」や「親子クリスマス会」では、大勢の子どもたちに遊びや職業体験などの場を提供するとともに、「リサイクルチャイルドシート貸出事業」や学校への「ボランティア活動助成」、「子ども民生委員活動」でも子育てを支援しています。また、昨年20回目を迎えたボランティアフェスティバルは、ボランティア団体のつながり作りや活動資金確保に寄与しています。さらに、小学校からはプルタブ集めで毎年車イスの寄贈を受けていて、住民の方が緊急に必要な時など貸し出ししています。これらの活動を支えるのは、石井町協会のボランティアセンターです。ボランティア団体が必要とする機材の貸し出しや、ボランティア協議会の運営支援も、ボランティアセンターの重要な役割となっています。社協の高齢者・障がい者支援としては、安否確認も兼ねて、各地区の婦人会の協力による独居老人の配食サービスを実施したり、点訳・音訳ボランティアによる広報誌発行事業を行っています。

石井町協会は、相談業務、ボランティア支援、地域福祉活動を大きな3つの柱とし、今後も地域の方々と連携して地域の福祉向上に努めます。



「第19回石井町ボランティアフェスティバル」



地域と共に事業を推進

石井町協会は、町や町内の各種団体と協力し、「はぐくみ子育て応援団」事務局として子育て支援に力を入れています。「みらいフェスタ」や「親子クリスマス会」では、大勢の子どもたちに遊びや職業体験などの場を提供するとともに、「リサイクルチャイルドシート貸出事業」や学校への「ボランティア活動助成」、「子ども民生委員活動」でも子育てを支援しています。また、昨年20回目を迎えたボランティアフェスティバルは、ボランティア団体のつながり作りや活動資金確保に寄与しています。さらに、小学校からはプルタブ集めで毎年車イスの寄贈を受けていて、住民の方が緊急に必要な時など貸し出ししています。これらの活動を支えるのは、石井町協会のボランティアセンターです。ボランティア団体が必要とする機材の貸し出しや、ボランティア協議会の運営支援も、ボランティアセンターの重要な役割となっています。社協の高齢者・障がい者支援としては、安否確認も兼ねて、各地区の婦人会の協力による独居老人の配食サービスを実施したり、点訳・音訳ボランティアによる広報誌発行事業を行っています。

## 社協の実践

## ともに生きる豊かな福祉社会を目指して

## アクティブ・シニア生涯活躍促進事業「徳島県版介護助手制度」モデル事業

慢性的な人手不足に悩む介護現場で、介護助手に「周辺業務」を担ってもらうことは、現役介護職員がより専門的な業務に専念できるとともに、職員の負担軽減にもつながります。

一方シニアの方々にとっては、自分の時間や体力に応じて働けるため、無理せず社会参加できるとともに、介護予防に役立てることもでき、結果的に双方のメリットが地域の活性化につながっていきます。

### 平成30年度「介護助手」として働くまでの流れ

事前説明会 7・8月	各施設が開催するシニアに向けた「事前説明会」に参加し、施設での仕事内容等の説明を受けます。
面接 8月	事前説明会で話を聞いて「働きたい」と希望された方が施設に面接を申し込みます。
採用 8月	施設との面接を行い、採用かどうかが決まります。
実施 9月	実施期間 平成30年9月1日～11月30日

※モデル期間終了後は、施設とシニアのみなさんが相談し、条件が合えば継続雇用されます。

- 問い合わせ先：福祉人材センター福祉施設(種別協)担当
- TEL：088-654-4461 FAX：088-656-1173
- 県社協のホームページでも確認できます。  
(ホームページ掲載予定：平成30年7月上旬)

### 「介護助手」の皆さま・施設の皆さまの感想

#### 現場職員の声

介護経験のない方が入ることで、他職種の客観的な意見を聞くことができた。

朝の食事介助時にバタバタすることなく、ゆっくりと介助することができるようになった。

見守りと専門外の業務を介護助手が担ってくれることで、専門業務に安心して取り組めた。

入居者様への声かけや対応が丁寧で、介護助手の方を見て初心に戻って、業務に取り組めた。

#### 介護助手の声

最初は不安でいっぱいだったが、職員の皆さんが優しく安心した。

1週間の生活リズムが確立されたので、生活にメリハリができた。

年齢を感じていたが、介護助手としてお仕事ができて嬉しく喜びを感じる。

体の続く限りは頑張りたい。もっと介護のことに関わっていききたいと思う。

モデル期間初期

モデル期間後期



日開野 博

とくしまボランティア推進センター運営委員長。徳島県下や中国・四国管内のボランティアの組織活動や福祉のまちづくり活動・地域福祉活動推進アドバイザー等として広く活動中。

### ボランティアセンターのルーツ「とくしまの善意銀行」と木谷宜弘氏

徳島のボランティア活動史を語る上で、日本のボランティア活動の父と呼ばれている本県出身の故木谷宜弘氏(全社協・初代全国ボランティア活動振興センター所長)を忘れることはできません。木谷氏は徳島での中学時代、昭和20年終戦後、焦土化した市内のバラック小屋で子どもたちへ童話の語り部の活動を行っていました。その後、徳島県社協に就職するなり、昭和36年5月に「徳島ボランティアの集い」を開催し、そこから善意銀行(昭和37年創設)という銀行システムの構想が生まれたと語っていました。まさに現在のボランティアセンターのルーツであり、善意銀行は全国の市町村社協に広がり定着しています。「あなたの善意を預かります(金品・労力・技術)」をキャッチフレーズとし、住民の善意を効率よく繋ぐものであり、ボランティア活動の啓発と発掘を兼ねたものであります。ボランティアセンターは市民のボランティアパワー(金品・技術・労力・心情等の善意)を登録し、必要な時に必要な所に必要なだけ払い出すという「ボランティア・コーディネーション」機能であり、現在の災害ボランティアセンターにもその機能と活動は繋がっています。